

「2020年度第3四半期決算」テレフォンカンファレンス

主な質疑応答

1. 航空・宇宙・防衛事業領域の業績見通しについて

- ・ 3Q から 4Q にかけて、防衛、宇宙関連の売上が大きく増加する見通し。利益は横ばいを想定。
- ・ 3Q まで、販管費、研究開発費を大幅に抑制してきたが、翌年度に先送りできず 4Q で実施しなければならない研究開発案件等の費用を通期見通しに織り込んでいる。
- ・ 収益性の高い従来型エンジン機種のスぺアパーツの売上が減少する一方、収益性の低い新型エンジンの売上が拡大しており、この傾向は 4Q にかけても続くとみている。
- ・ なお、民間航空エンジンの売上高見通しが 3Q から 4Q にかけて減少しているのは、新型エンジンの初期不具合対応等の費用の発生を 4Q に見込んでいるためである（当該費用は、当年度から適用している収益認識会計基準の下では、売上高から減額処理される）。

2. 資源・エネルギー・環境事業領域の営業利益が大幅に改善しているが、主要因は？

- ・ 火力発電設備を中心に、アフターサービス事業に軸足を移した効果が出始めている。

3. 車両過給機事業の見通しについて

- ・ 4Q にかけて、売上が大きく減少するリスクは小さいとみている。
- ・ 現在、材料価格の高騰によるコストアップ分の回収について、お客さまと交渉を続けている。これが 4Q までに回収できない可能性は低いが、一定のリスクは織り込み済みである。

4. 通期見通しで織り込んでいる資産売却の、3Q における実績は？

- ・ 資産売却は 4Q での実現を目指して、取り組みを続けている。

以上